

主の洗礼

2015.1.11

マタイ 3・13-17

先週の主の公現の祭日に続いて、今日の日曜日は主の洗礼を祝います。クリスマスから今日の主の洗礼の祝日までが、教会の典礼の暦では降誕節の季節です。今日の主の洗礼の祝日は、今日の福音が告げているイエスの洗礼を記念する祝日です。何故、降誕節の最後の主日に主の洗礼を祝うのかということは、今日の福音の最後に、洗礼をお受けになったイエスの上に響く父である神のことばに示されています。ヨルダン川の水に身を浸して洗礼をお受けになったイエスが水から上がって、祈っておられると「天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た」と語られています。そして、「その時、『これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』と言う声が、天から聞こえた」のです。イエスが洗礼を受けられた時のこれらのしるしとことばによって、クリスマスの夜、わたしたちがその誕生を祝ったイエスがどのようなお方であるかを、神ご自身がわたしたちに示してくださるのです。このことが、降誕節の最後の主日に、イエスの洗礼の場面を思い起こし、祝うことの意味であると思われれます。今日の福音を通して神ご自身が、クリスマスの夜、わたしたちの世界にお生まれになった神の御子の神秘にわたしたちを招き入れようとしておられるのです。

それにしても、神の御子であるはずのイエスは、何故洗礼者ヨハネから洗礼を受けられたのでしょうか。洗礼者ヨハネが人々に求めたのは、迫り来る神のさばきの日に備えるための、悔い改めの洗礼です。神の子としてのイエスご自身には、わたしたちの場合のように悔い改めなければならないことは、何もなかったはずですが、それにもかかわらず、イエスがヨルダン川のヨハネのところへ来られたのは、ヨハネから洗礼を受けるためであったと語られています。イエスは自ら望まれて、大勢の人々に交じって洗礼者から悔い改めの洗礼を受けられました。ヨハネから洗礼を受けようとするイエスの意志は、洗礼者とのやり取りの中でさらに明確にされています。イエスに洗礼を授けることを躊躇しているヨハネに対して、イエスこう言われます。「今は、止めないでほしい。正しいことを全て行うことは、我々にふさわしいことだ」。イエスのこのことばに従って洗礼者ヨハネはイエスに洗礼を授けたのです。神の御子であるイエスにとって正しいことを行うとは、父である神の御心に適ったことを行うということです。イエスは父の御心を行うために、洗礼者が人々に宣べ伝えた洗礼を受けられたのです。それなら、イエスは何故そうすることが父の御心に適うことであると受け止められたのでしょうか。

クリスマスの夜、羊飼いたちのほかには誰にも気づかれずに、密かにベツレヘムの馬屋にお生まれになった神の子イエスはそのようにしてわたしたちの世界に来てくださいました。布に包まれて飼葉桶の中に寝かされた乳飲み子イエスは、わたしたちすべての者と同じ者となって、わたしたちの世界に来てくださったのです。そのようにしてわたしたちの中にインマヌエルとしてお生まれになることが、父である神のその御子に対するお望みであったのです。「神は、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された」とヨハネ福音書が教える、わたしたちすべての者への神の愛のしるしそのもとして、神の御子が人間であるわたしたちの一員となって、わたしたちの世界に来てくださったのです。

わたしたち人間の心の深みにある渴望は、自分たちが救われることへの願いです。洗礼者のもとに群がるように集って来た人々は皆、救われることを願って、救いに与る条件として洗礼者ヨハネが説いた悔い改めの洗礼を受けていたのです。イエスは、そのような神の救いを求める人々の中に来てくださって、彼らの願いと一体となって、自らも洗礼者ヨハネから洗礼を受けられたのです。それが、この人の世に愛する御子を送り出された父である神のお望みだからです。今日の福音に語られているイエスのこのような生き方に対して、父である神は「これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者」と応えておられます。

イエスが洗礼を受けて水から上がられると、天がイエスに向かって開いたと言われています。人々に交じって、人々の心と一つになって洗礼をお受けになったイエスのうちに、父なる神は、その御心に適う、愛する子を見出されたのです。そのイエスに向かって天が開かれたのです。イエスがそこにいてくださることによって、この地上でイエスと共に、救いを求めて洗礼を受けた人々上にも天が開かれたのです。そのためにイエスは自らも洗礼を受けることを望まれたのです。

イエスに向かって開かれた天を通して、聖霊が鳩のようにイエスの上に降るのをイエスをご覧になったと言われています。このとき、イエスの上に降った聖霊は、今日の第一朗読のイザヤの預言を思い起こさせます。イエスはこのとき、イザヤ預言者が告げていた主のしもべとして、主なる神が約束されたメシアとして聖霊を注がれたのです。洗礼の時のこの聖霊の降臨によってイエスのメシアとしての活動が開始されようとしています。メシアとしてのイエスの働きがどのようなものであるかということは、第一朗読のイザヤの預言が告げているとおりです。洗礼者ヨハネが考えていたような神の怒りの炎をもって実現されるさばきではなく、傷ついた葦を折ることなく、暗くなってゆく灯心を消すことをなさない、憐れみの愛によってもたらされるさばきを行うメシアとしてイエスは来てくださったのです。イエスの上に降った聖霊が鳩のような姿で描かれていることにも、同じような意味が込められています。

イエスの上に降った聖霊の鳩は、ノアの洪水を思い出させます。鳩は、ノアとその家族たちに、人類の罪に対する神の怒りのさばきとしての洪水の終わりを知らせたのでした。洗礼を受けて水から上がられたイエスの上に舞い降りた聖霊の鳩は、イエスの洗礼によって始まる新たな神の救いの時を告げているのです。クリスマスにわたしたちのもとに来てくださった、わたしたちのメシア・救い主イエスが、わたしたちにもたらしてくださった救いのみわざは、今日わたしたちが祝っている、イエスの洗礼によって開始されるのです。

イエスはわたしたちのために、わたしたちと共に洗礼を受けてくださいました。わたしたちもイエスがもたらしてくださった神の救いを求めて、イエスの御名によって洗礼を受けた者たちです。それは、イエスとその十字架の死と復活をもって完成してくださった神の救いをこの身にいただくためです。今日のこのミサをささげて、わたしたちがいただいている洗礼の恵みのありがたさを噛み締めながら、その始まりとなったイエスの洗礼、主の洗礼の祝いを祝いたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高